

大和市障害者自立支援協議会 第3回定例会 議事録

場 所： 大和市障害者自立支援センター
日 時： 平成21年11月30日 17:00～19:00
出席者： 下記参照

出席者：定例会委員（敬称略、定例会組織図順）

宇山秀一（県央療育センター）

山岸安志（大和障害者地域生活支援ネットワーク）

鳥原信一（大和市身体障害者福祉協会（視覚））、春日恵美子（大和市手をつなぐ育成会）

田村桂子（（特非）大和さくら会（精神障がい者家族会））

辻田淳子（神奈川県立瀬谷養護学校 地域支援担当）、星野宗吾（自立支援センター）

松本孝治（サポートセンター花音）、目黒裕（松風園）、関水貴浩（福田の里）

澤田眞理子（大和保健福祉事務所保健予防課）

阿南由美（大和市教育委員会総務部指導室）

菊地原広憲（大和市健康福祉部障がい福祉課）

高橋正敏（大和市身体障害者福祉協会（肢体不自由））※

事務局

佐藤倫孝、三瓶悦子（自立支援センター）、関水覚（福田の里）

五十嵐衛（サポートセンター・花音）、

柏木裕幸、進藤隆、笹岡整、民實健二（大和市健康福祉部障がい福祉課）

欠席者： 成澤一之（ワークステーション菜の花）、佐野文彦（あゆみの家）

村元良悦（大和市社会福祉協議会）

大沢茂子（大和市身体障害者福祉協会（内部））※

田辺暎夫（大和市身体障害者福祉協会（聴覚））※ 注）※オブザーバー出席者

山田兼右（松風園）

配布資料： 1、相談支援事業実績報告

2、相談事例報告書（1件）

3、専門部会活動報告（児童・就労・精神・身障）

内 容：

・会長挨拶

10月からサポートセンター花音の所長が村尾朗氏から松本孝治氏に変更。変更に伴い、今後、松本氏が委員として、会議に出席する。

定例会が、重要な会議として少しずつ浸透してきた。大和市障がい者福祉計画策定委員会と相互に関連し合いながら進めている。

〔 議 題 〕

1、相談支援事業 活動報告

(1) 実績報告

【質疑応答】

- ・資料に基づき、事務局より説明。
 - ・情報収集や問題解決の為に相談するのだと思うが、問題解決までの統計はとっているか。解決に至っていない継続相談について分類や統計が取れているか（委員）
- 4 受託事業所共通のデータベースを持っている。解決すれば、継続のカウントからは減っていく。内容については個人別の相談データがある（事務局）。

(2) 事例報告（事例を通した課題提起）

「サービス調整と短期入所の現状と課題」

- ・資料に基づき、事務局より報告。短期入所利用時の課題についての報告。報告及び、質疑応答の詳細については、個人情報保護のため、省略。

3、専門部会活動報告

①児童部会：資料に基づき、事務局より報告。

- ・この事業は部会としては、保護者の方が悩みをどこに持って行けばよいかを周知したい。昨年度、パンフレットを作成し、配布している成果もあり、相談も増えている。この企画は初めてであるので、相談支援の中身として欠けている観点について意見を頂き、また部会等で検討していきたい（委員）。
 - ・子どもの支援事業所との関係はどうか？日中一時支援事業所等、その様な事業所とコラボできれば良いのでは。保育家庭課も入っているので、是非進めて欲しい（委員）。
 - ・親と関わっているケースが多いが、引きこもりの親が精神障がいになるケースも多いが。大和市で不登校や引きこもりの事例を把握していれば教えて欲しい。（委員）
- 数は分からないが、相談は増えている。上和田中学校には不登校支援員を設置している。青少年相談室では「まほろば教室」を行っている（委員）
- 難しい課題は多くあるが、徐々にスポットライトを当てて、支援をお願いしたい（委員）
- この視点は、課題として大きい。児童部会で検討していきたい（委員）。
- 親子で障がいを持つ場合も多い。潜在的に不登校や引きこもりの環境が増えている。原因が複雑化している（委員）。
- 最近、発達障がいなどに関して遺伝性も医師の意見としては出てきている。3%発達障がいが出ると言われる。数値的には多い。問題は根深いのでは。その後、40%は問題を解消していく。子どもの時の影響は大きい。数値を把握する事も必要では。考え方が変わってきている。専門的な理解が必要では（委員）。
- 6.8%という数値も出ている。大和市でも4%を超えている。18.7%がアスペルガー、20.8%が知的障がいを伴う自閉症（委員）
- 課題としては大きい。児童部会でも取り上げてもらいたい（委員）。
- 「発達障がい」という分類が分かりにくいのでは。支援者側で考えた分類であって、本人側から見ると、例えばLDとアスペルガーでは全く異なる（委員）。
- 巡回相談室、取り組んでいるが。地域に理解を促す事が必要。区別ではなくて、理解してもらおう（委員）。

②就労部会：資料に基づき、事務局より報告。

- ・「やまねっと」の就労促進職員との連携。
- ・部会を通して営業も行っている。また営業に向けての広報も部会で検討していきたい（委員）。
- ・自主製品販売に関して、関係イベントがあれば、共同出店等も考えてゆけるのでは（委員）。
- ・ネットワークだけではなくて、自立支援センターの前身では作業を振り分けたり開拓していた。センターと企業を結びつけることも市として考えて欲しい。最近は紹介が無くなっている。市が連携して検討して欲しい（委員）
- 自立支援センターの受注量はピーク時の月に150万円から40万円、4分の1に落ちている。課題として認識している。努力していきたい（委員）。
- 就労部会で、全体のシステムとして考えていきたい（事務局）。
- 自立支援センター単体の課題ではない。以前の授産センターと比べると、比重が就労支援に移行してきている。市がもう少し積極的に関与して取り組んで欲しい（委員）。
- 「自立支援」とは就労支援のみではなく、バリアフリーや教育の問題等、色々と考えて欲しい。一般の方の意識を高めて欲しい。車椅子の通行にしても、ルールが定まっていない（委員）
- 理解を求めていく事が課題。社会的モラルが変化している。障がい者が弊害を感じる場合が多い。社会的モラル、取り組んでいきたい（委員）。
- 当時、低所得者の作業場の確保と障がい者の授産で一緒の形でやっていた。現在は障がい者の就労が社会的に求められる様になってきた。就労全体で考えると、センター機能として市としても期待している。その様な面も市も一緒に連携して取り組みたい（委員）。

③精神部会：資料に基づき、事務局より報告。

- ・具体的に、憩いの場などの検討は進んでいるか（委員）。
- 具体的な検討は進んでいないのが現状（事務局）。
- インフォーマルな支援や当事者活動などの情報共有も行っている（委員）。
- ・市の施設を週に1回でも開放して欲しいと依頼しているが、出来ないとの返答。（委員）。
- 「コンパス」が居場所としてあった。現在はプログラム活動が多くなっているが、引き続き居場所としても考えている。以前は特定者の居場所となってしまうと利用者同士のトラブルも多かった。多くの人に利用してもらう為に、プログラム化している。市としてもバックアップしていきたい。市としてハード的な物を作るのが難しいので、現存の物を利用していきたい（委員）。
- 大和市に精神障がいをもった方が2千人いる中で、合計3ヶ所の作業所ではあまりにも少なすぎる。増やす努力をして欲しい（委員）
- 現存の作業所の方向性も定まっていない。新たな参入を増やす事も必要では（委員）。
- ・保健福祉センターの利用は出来ないか？（委員）
- ぐるーぷ窓などは利用している。箱物行政は、福祉に限らず厳しくなっている（委員）。
- ・部屋を居場所として利用できる公共施設はないか（委員）。
- 利用希望がとても多い。それでも福祉は優先しているが、定期的には難しい（委員）。

④身体障害部会：資料に基づき、事務局より報告。

- ・外部の有識者を招いて勉強すべき。協議会周知を目的にシンポジウムを開いて欲しい（委員）。
 - 部会で取り組んできている。昨年度は精神部会で「ピアカウンセリング」の研修会、就労部会では企業の採用担当を招いて「企業の求める労働者像」という研修会を開いている（事務局）。
 - 協議会として情報発信、全体でシンポジウムをしたい（委員）。
 - テーマをしっかりと設定しないとイケない。園域の協議会でも行っている（委員）。
 - ※今後、協議会の周知等を目的にシンポジウムの開催を検討する。

4、大和市障がい者福祉計画骨子案について

- ・大和市障がい福祉課より説明。
- ・骨子案のたたき台→素案（案）
 - 主な変更点
 - I、選挙に参加できる権利を明確に謳った方が良いという意見あり→盛り込む。
 - II、特別支援学校の誘致について要望を県に行っていく→盛り込む。
 - III、計画目的や位置づけについて、盛り込む。
 - 2月にパブリックコメントとして出す。

【質疑応答】

- ・どの様に評価してゆくか。また、現状は？今後は第3者を入れて評価して欲しい（委員）。
 - 現状としては、事務事業評価で評価が行われている。ご意見については担当に話していきたい。また、自立支援協議会の定例会等を通じて、意見を求めたい（障福課）。
 - 事務事業評価とは何か？
 - 決られたフォーマット、基準で行う評価。
 - ユーザーの意見（評価）も取り入れて欲しい（委員）。
 - 事務事業評価は、大和市のホームページで公開している（委員）。
 - 達成度や経費等を中心に公開している。連携作りに関しては協議会に対して期待したい（委員）。

5、その他

①定例会の傍聴希望が出ている。

- （事例報告も）抽象的な課題を明確化していけば可能では（委員）。
- ケース検討は、十分に配慮し、一時退席してもらってはどうか（委員）。
- 傍聴は特に問題ないと思うが、相談事例報告については、目的が周知ではない。事例検討は（傍聴対象から）抜いても良いのでは（委員）。
- 事例報告は、相談の評価という目的もある（委員）。
- 傍聴は、どの様なケースでも受け入れるのか？（委員）。
- ※傍聴としては、認める方向で、進め方は検討していく。

②瀬谷養護学校より、お知らせ

- ・公開授業のお知らせ、公開講座の案内、交流フェスティバルの案内

③次回の定例会

- ・2月の第4週を予定。

以上